

# 親の会 だより

第98号

発行日：R元.9.25

発行

岩手県ことばを育む親の会

会長：主濱 友子

事務局

盛岡市立桜城小学校

きこえとことばの教室内

## 《第三十六回幼児期の言語教育研修講座》

八月二十四日(土)に県内の幼稚園・保育園(所)・こども園の先生や保健師、学校関係者等のための「第三十六回幼児期の言語教育研修講座」を、参加者百二名で開催しました。

講演は、講師に盛岡大学附属厨川保育園 園長 廣瀬洋子先生をお招きしました。「こどものことばのせかい ～子どもから学ぶコミュニケーション～」として、子どもがどんな思いでいるのか読みとり、心に寄り添い関わっていくことの大切さを園や園の周りの様子、子ども達の活動の様子などのたぐさんの写真とともにお話くださいました。

講座Aでは、岩手大学教育学部特別支援教育科准教授滝吉美知香先生に、「幼児期のことばの発達」について、豊富な実例や調査結果などをもとにお話をいただきました。

選択講座は、三つの課題に分かれて研修しました。講座Bは、『「ことばに関する」課題と指導・支援 ～「簡単なことばの検査を中心に」～』、陸前高田市立気仙小学校 佐藤 司先生、講座Cは、『「発達に特性のある子どもたちへの指導・支援」～「保護者との連携」～』、盛岡市立津志田小学校 鷲塚美智代先生、講座Dは、『「幼児教室における指導・支援」その2～幼児期の心を育てる関わり方～』、岩手県立療育センター 相談支援員 笹平 有美先生にお話をいただきました。簡単なことばの検査の方法や発達に特性のある子どもの理解や保護者との連携、幼児期の心を育てる関わり方について事例等をお話くださいました。また、講座終了後も、受講者からの質問や相談に応じてくださいました。

### 参加者の感想より

○子どもの実際の姿から学ぶことができた。ことば以外のコミュニケーションの大切さを確認することができた。

○専門的な内容で、ASDについて科学的な理論を学ぶことができた。

○自分のクラスの子にも当てはまるような発音の仕方の例が多くあり、勉強になった。構音の完成時期についても聞き、年齢によって指導が必要な場合があることが分った。

○事例をもとにした内容で、支援の方向性を学ぶことができた。保護者との信頼関係の大切さを改めて感じた。

○専門的かつ具体的で、実践にいかせる内容で参考になった。

○実際に使っている道具や教材を知る機会になり、とても勉強になった。質問に丁寧に答えていただきありがとうございました。

### 県親の会からのインフォメーション

○第十八回すっぴんの会(吃音のある子と保護者の交流会)  
・令和二年一月二十五日(土) アイーナで開催予定

○県内八つに分かれて、ブロック研修会が行われています。学習会の開催、情報の共有や交流などの内容や話題について県事務局にお知らせください。次号に掲載を予定しています。



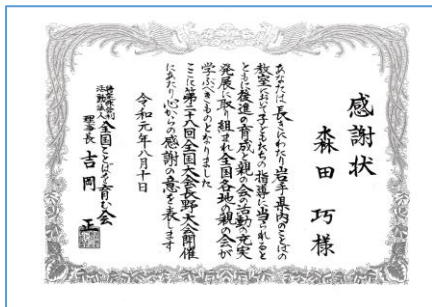
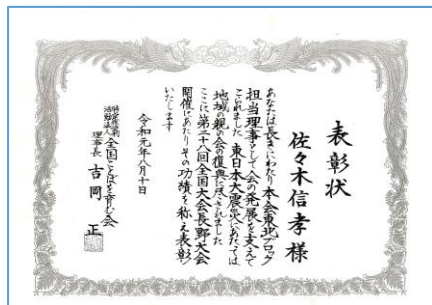
## 《NPO法人

# 全国ことばを育む会第二十八回全国大会長野大会》

八月十日(土)・十一日(日)の二日間、NPO法人全国ことばを育む会第二十八回全国大会長野大会が、「であい つながり ひろがる」第一期一会から未来へ「in長野」の大会テーマのもと長野市で行われました。

この大会で、県親の会 前会長 佐々木信孝氏と参与である森田 巧先生(盛岡市立杜陵小学校ことばの教室担当)が全国表彰を受賞されました。

佐々木氏は、「全国の理事として会の発展を支え、震災後の地域の親の会の復興に尽力を尽くされたこと」に対して表彰状を。森田先生は「県内のことばの教室で長年指導に当たられ、後進の育成と親の会活動の充実発展に取り組み、全国各地の親の会が学ぶべき功績」に対して感謝状を授与されました。県としても大変名誉な事でありました。



## 《記念講演》

「共生社会におけるであいとつながり」～国立のぞみの園の現場から～

講師 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園事業企画研究部長 日詰 正文 先生

共生社会の中では、自分の困り感にSOSを出すことが大事である。自分のことがわかることは「かっこいいこと」であり、本人が自覚することのよさについて強調していました。

《パネルディスカッション》「ことばの教室での出会いから」

パネリストは、長野市内の旧担当者と旧親の会会長、全難言協事務局長、北海道親の会会長の4名でした。先輩パネリストは、「あってよかったことばの教室・親の会」を振り返りました。長野県親の会では、親が語り合う場として親子キャンプを行っています。現役パネリストから、通級教室担当は、いいところ探しの専門家である。通級教室は、「笑顔になれる場所」「自分の得意なことを見つけられる場所」「自信をもって何かをできる場所」である。個性が認められる時代において、通級指導教室の役割について語られました。

## 《分科会》

六つの分科会が行われました。

○「発達障害のある子の子育てエピソード」

中学を不登校で過ごした生徒が、高校では皆勤賞。大学を卒業し、就職するが、うまくいかなかった。今は再就職し落ち着いて過ごしている。これまでの支援や連携を振り返り、周囲の理解について語られました。

○「難聴の子とともに」

小学校から中一まで支援員と通常の教室で、中二から聾学校で過ごした難聴児。保護者と補聴器を扱った専門家との連携が話されました。

○「親が主体となつて創る活動」

静岡県親の会活動で、親が中心となつて行う親子キャンプが紹介されました。

○「吃音当事者とことばの教室担当者が語る」

大学生になるまで吃音に気付かず過ごした経験談を聞きました。教育者となり、念願のことばの教室担当として、児童の吃音に寄り添うことができると話していました。

他に「就学前の親子の療育」「できることは何だろう」分科会がありました。親の悩みを親の会活動につなげて活動するということが基本であり、忘れてはならないということを再確認する大会でした。